

令和 5 年度 点検・評価報告書

学科名・専攻名 総合情報学研究科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	博士前期課程においては、教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）に基づき、情報処理や情報科学に関連する研究を推進していくための総合情報学や基礎知識を修得する「基礎科目」を配置している。「情報システム系列」、「社会情報系列」、「ヘルスケア情報系列」の3つの系列においては、それぞれの専門的特徴を活かした「専門科目」（コースワーク）を配置し、「修士特別研究」（コースワーク）により、研究・開発能力を修得する研究指導、「修士特別演習」（リサーチワーク）により、研究の素養を修得する口頭発表や修士論文発表会などを実施している。なお、「専門科目」（コースワーク）に関しては、学部教育との接続性を考慮して、「情報システム系列」では、システム開発、ネットワーク、知能情報、環境情報、データサイエンスの各分野、「社会情報系列」では、メディア情報、経営・社会情報の各分野、「ヘルスケア情報系列」では、保健医療福祉の分野に分類して体系化することで、学生の専門性に対する科目選択の方向性を明確化している。	学部学生の研究意欲の向上、大学院教育の重要性を啓蒙する措置として、大学院リーフレットを作成し、学部学生に対して大学院説明会などを複数回実施している。大学院説明会においては、在学院生による相談会も実施している。また、研究に関する問題意識を高め、大学院での修士研究により多くの時間をあてることを目的とし、学部学生が大学院の科目を履修できる先取り履修制度を設けている。	成績評価及び単位認定を適切に行うための措置： ・「授業科目の履歴及び単位認定」を「学生ハンドブック」、東京情報大学大学院学則第6条から第8条に基づき、「授業科目の履修及び単位認定」を「学生ハンドブック（諸規則諸規程）」に明示し、単位認定を行っている。 ・東京情報大学大学院学則第12条及び第13条に基づき、「課程修了の要件」を「学生ハンドブック（諸規則諸規程）」に明示し、修了判定を行っている。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示してある（専門知識・技能）、（研究・開発能力）、（研究の素養）を把握、評価するため、研究論文発表会（中間報告）の際にループリック型のパフォーマンス評価を実施している。パフォーマンス評価では、「テーマ設定」、「研究内容」、「発表内容」の3つの観点から9項目を設定して研究論文発表会（中間報告）の際にパフォーマンス評価を実施することで学生の研究活動の進捗状況を把握、評価している。次に、その評価内容と集計結果を当該学生の指導教員を通じて学生にフィードバックし、その後の研究活動の改善に活用している。	「情報システム系列」、「社会情報系列」、「ヘルスケア情報系列」の3つの系列におけるディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーに基づいて、カリキュラム構成（コースワーク、リサーチワークを含める）の体系化し、教育課程を編成・実施している。
	博士後期課程においては、総合情報分野において、情報化社会における諸問題を的確に捉え、独創的な考えで研究活動の行う研究の素養を修得するための科目として「情報哲学」（コースワーク）を	大学院学則第12条及び第13条に基づき、在学院生による相談会も実施している。また、研究に関する問題意識を高め、大学院での修士研究により多くの時間をあてることを目的とし、学部学生が大学院の科目を履修できる先取り履修制度を設けている。	東京情報大学大学院学則第12条及び第13条に基づき、「課程修了の要件」を「学生ハンドブック（諸規則諸規程）」に明示し、修了判定を行っている。	また、「基礎科目」、「専門科目」の各科目のシラバスに、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の（専門知識・技能）、（研究・開発能力）、（研究の素養）と関連付けた到達目標を明記し、到達目標を達成した場合にのみ単位を授与している。	カリキュラムの各科目の改善・向上に向けた取り組みとして、受講生による科目ごとの「教育評価アンケート」を実施し、その結果を講義担当者へフィードバックすることで、講義の質の改善・向上を図っている。
		研究活動に関しては、「学生ハンドブック 論文計画書の提出から学位論文審査の申請まで」において、年間スケジュールと研究指導の内容を明示し、これに基づいて実施している。また、論文計画書において複数の指導教授及び指導准教授による指導体制を明示し、研究指導の強化を図っている。	学位授与を適切に行うための措置： ・東京情報大学大学院学則第14条から第18条に基づき、「学位論文（博士前期課程）審査のための要件及び方法」及び「博士（総合情報学）の学位授与のための要件及び方法」を「学生ハンドブック（諸規則諸規程）」に明示し、論文審査を行い、学位を授与している。	また、「基礎科目」、「専門科目」の各科目のシラバスに、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の（専門知識・技能）、（研究・開発能力）、（研究の素養）と関連付けた到達目標を明記し、到達目標を達成した場合にのみ単位を授与している。	2023年度からは「総合情報学部将来構想検討委員会」において、2023年度総合情報学部改組に対応するディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの方針とそれに基づく教育課程の編成・実施の検討を実施している。
		研究発表に関しては、研究論文発表会（中間報告）の際に、複数の教員によるパフォーマンス評価を実施すること	博士前期課程の修了要件は、大学院学則第12条の規定に基づき、修士の学位授与のための基準及び方法を設け、主査（主担当指導教員）及び副査（副担当指導教員）による論文審査、最終試験を行っている。大学院研究科委員会が主催する修士論文発表会及び論文審査、最終試	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示してある（専門知識・技能）、（研究・開発能力）、（研究の素養）を把握、評価するため、研究論文発表会（中間報告）の際にループリック型のパフォーマンス評価を実施している。パフォーマンス評価では、「テーマ設定」、「研究内容」、「発表内容」の3つの観点から9項目を設定して研究論文発表会（中間報告）の際にパフォーマンス評価を実施することで学生の研究活動の進捗状況を把握、評価している。次に、その評価内容と集計結果を当該学生の指導教員を通じて学生にフィードバックし、その後の研究活動の改善に活用している。	

令和 5 年度 点検・評価報告書

	配置している。「情報システム系列」、「社会情報系列」、「ヘルスケア情報系列」の 3 つの系列の博士前期課程で修得した専門知識や研究能力を基礎として、「博士特別研究」（コースワーク）により、極めて高度な専門知識、論理的で独創的な研究・開発能力を修得する研究指導、「博士特別演習」（リサーチワーク）により、研究成果や解決策を的確に社会へ発信する情報発信力、コミュニケーションなどの能力を養う口頭発表や博士論文発表会などを実施している。	で学生の研究活動の進捗状況を把握、評価している。また、その評価内容と集計結果を、当該学生の指導教員を通じて学生にフィードバックし、その後の研究活動の改善に活用している。加えて、研究論文発表会の過去から現在までの発表資料を指導教員と大学院生間や大学院生同士で共有できるようにし、自己成長過程の確認やレビューにより、発表資料作成能力の向上を図っている。 入学後の研究活動に係わる環境作りに関しては、「部門・土地建物等利用委員会」に大学院生の研究室を申請して、研究活動スペースを確保している。また、先端データ科学研究センターをデータサイエンスの研究拠点にすると共に、学部学生から大学院生までがデータサイエンスに関する研究を進める環境整備を進めている。 学部・社会人からの受入推進のために、奨学金制度の見直しを行い、新たな奨学金制度を運用している。	験の評価に基づき修士の学位授与のための最終審査（研究科委員会）において判定している。 博士後期課程の修了要件は、大学院学則第 13 条の規定に基づき、博士の学位授与のための基準及び方法を設け、主査及び副査による論文審査、最終試験を行っている。研究科委員会が主催する公聴会及び論文審査、最終試験の評価に基づき博士の学位授与のための最終審査（博士課程研究科委員会）において判定している。		
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・系列・専門分野において体系化した科目群の配置し、選択できるようにしている。	【長所】 ・学部と大学院の接続性を考慮して、系列・専門分野や科目履修制度を設置している。 ・複数の教員によるパフォーマンス評価や研究指導体制の整備を実施している。	【長所】 ・特になし	【長所】 ・特になし	【長所】 ・特になし
	【特色】 ・「情報システム系列」、「社会情報系列」、「ヘルスケア情報系列」の 3 つの系列において、それぞれの専門的特徴を活かした「専門科目」（コースワーク）を編成し、「修士特別研究」（コースワーク）により、研究・開発能力を修得する研究指導、「修士特別演習」（リサーチワーク）により、研究の素養を修得す	【特色】 ・学部学生が大学院の科目を履修できる先取り履修制度を設置している。 ・総合情報学部「先端データ科学研究センター」と連携し、学部から大学院までの学生がデータサイエンスに興味を持ち、データサイエンスに係わる研究を進める環境を整備している。	【特色】 ・特になし	【特色】 ・「テーマ設定」、「研究内容」、「発表内容」の 3 つの観点から 9 項目を設定して研究論文発表会（中間報告）の際にパフォーマンス評価を実施することで学生の研究活動の進捗状況を把握、評価している。また、その評価内容と集計結果を、当該学生の指導教員を通じて学生にフィードバックし、その後の研究活動の改	【特色】 ・特になし

令和 5 年度 点検・評価報告書

	る口頭発表や修士論文発表会などを実施している。			善に活用している。	
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・2023 年度から実施している学部改組に対応する大学院教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を検討する。 ・授業科目のナンバリングを実施し、コースワークにおける科目の関連性の明示化を検討する。	【課題】 ・先端データ科学研究センターの活用などにより先端的で特色のある研究テーマを推進する。 ・社会人大学院生に関しては、通常の勤務をしながら修士号を取得する場合が考えられる。本件については、今後、具体的事案が発生した場合に、6・7 限開講・土曜日開講・集中講義・オンライン授業などの対応を検討する。	【課題】 ・特になし	【課題】 ・ルーブリックを活用したパフォーマンス評価内容や学生の学習効果の変化を表示するなどの評価方法や支援システムについての検討を進めている。	【課題】 ・特になし
根拠資料名	・学生ハンドブック 2023 （大学院総合情報学研究科）	・大学院リーフレット ・学生ハンドブック 2023 （大学院総合情報学研究科） ・学生ハンドブック 2023（諸規則諸規程）（東京情報大学大学院奨学生規程） ・第 343 回東京情報大学大学院拡大研究科委員会資料	・学生ハンドブック 2023 （大学院総合情報学研究科） ・学生ハンドブック 2023（諸規則諸規程）（東京情報大学大学院学則）	・学生ハンドブック 2023 （大学院総合情報学研究科） ・大学院ルーブリック評価表 ・大学院ルーブリック評価法 ・資料：修士論文・発表_採点用紙例	・学生ハンドブック 2023 （大学院総合情報学研究科） ・第 307 回東京情報大学大学院拡大研究科委員会資料 ・第 317 回東京情報大学大学院拡大研究科委員会資料

令和 5 年度 点検・評価報告書

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②																																																																
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。																																																																
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない																																																																
点検項目に対する 現状説明	大学院総合情報学研究科（博士前期課程および博士後期課程）は、学部教育との連携を強化するために、「情報システム」「社会情報」「ヘルスケア情報」の3つの系列で構成された教育体制を設置している。学生募集に関しては、学部生に対して、大学院パンフレットを配布し大学院の紹介を行うとともに、大学院進学説明会と進学相談を実施し、大学院進学を誘引している。学生の受入に関しては、学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、募集要項に募集要件、博士前期課程における講義内容を提示している。入学者選抜には、学内推薦入試と一般入試がある。学内推薦入試は、2023 年度から博士前期課程を 6 月上旬と 7 月上旬の 2 回、試験を実施しており、選抜方法は、書類審査、面接（口述試験）である。一般入試については、博士前期課程を 10 月上旬と 2 月中旬の 2 回、博士後期課程は 2 月中旬に実施しており、選抜方法は、外国語（英語）、筆記試験（博士後期課程は論文試験）、面接（口述試験）である。入学者選抜の可否判定は、入試結果を大学院拡大研究科委員会で審議している。	大学院総合情報学研究科（博士前期課程および博士後期課程）の入学者選抜（学内推薦入試と一般入試）に関しては、毎年、大学院拡大研究科委員会で適切性を審議している。 東京情報大学大学院学則第 4 条に入学生員及び収容定員を定めているが、下記に示すように定員を充足していない。その要因としては、情報系の新卒の売り手市場が拡大していること、生活面・学費面の問題から大学院に進学する余裕が無いことなどの外的要因が考えられる。一方、内的要因として、大学院の研究活動に関する学生の興味不足や大学院生の研究活動環境の不足などが考えられる。このような問題を解決して大学院進学者数を充足するには、大学院の教育体系の見直しや大学院生の生活支援の充実などの改革を推進することにより大学院教育・研究活動の活性化を図る必要があると考え、「大学院及び総合情報学部次期改革委員会」にて検討を進め、検討結果に基づいた新たな教育課程を 2021 年度（令和 3 年度）から開始した。2023 年度からは、「総合情報学部将来構想検討委員会」において大学院入試に関する検討を進め、博士前期課程の学内推薦入試を、6 月上旬の 1 回実施から 6 月上旬と 7 月上旬の 2 回実施に改定した。また、大学院進学のための説明会を 2 回実施するとともに、在学院生による相談会を実施した。加えて、学部生のキャリア科目において大学院進学のカリパスの説明を実施した。																																																																
	博士前期課程 選抜方法 <table><tr><th>試験時間</th><th>一般</th><th>社会人</th><th>備考</th></tr><tr><td>10:00～11:00</td><td>外国語</td><td>—</td><td>英語辞書（紙の辞書のみ）持込可</td></tr><tr><td>11:30～12:30</td><td>筆記試験</td><td>筆記試験</td><td></td></tr><tr><td>13:30～</td><td>口述試験</td><td>面接</td><td></td></tr></table> ※出願書類、外国語（英語：一般のみ）、筆記試験、口述試験（面接）等を総合して可否判定する。 ※外国語（英語）に持ち込める辞書は、英語辞典（紙の辞書のみ）に限る。	試験時間	一般	社会人	備考	10:00～11:00	外国語	—	英語辞書（紙の辞書のみ）持込可	11:30～12:30	筆記試験	筆記試験		13:30～	口述試験	面接		○過去 5 年間の入学生員に対する入学者比率 <table><tr><th rowspan="2">年度</th><th colspan="3">前期課程</th><th colspan="3">後期課程</th></tr><tr><th>入学生員</th><th>入学者</th><th>充足率</th><th>入学生員</th><th>入学者</th><th>充足率</th></tr><tr><td>H31</td><td>15</td><td>6</td><td>40.0</td><td>3</td><td>1</td><td>33.3</td></tr><tr><td>R2</td><td>15</td><td>6</td><td>40.0</td><td>3</td><td>0</td><td>0.0</td></tr><tr><td>R3</td><td>15</td><td>10</td><td>66.7</td><td>3</td><td>0</td><td>0.0</td></tr><tr><td>R4</td><td>15</td><td>9</td><td>60.0</td><td>3</td><td>2</td><td>66.7</td></tr><tr><td>R5</td><td>15</td><td>14</td><td>93.3</td><td>3</td><td>0</td><td>0.0</td></tr></table>	年度	前期課程			後期課程			入学生員	入学者	充足率	入学生員	入学者	充足率	H31	15	6	40.0	3	1	33.3	R2	15	6	40.0	3	0	0.0	R3	15	10	66.7	3	0	0.0	R4	15	9	60.0	3	2	66.7	R5	15	14	93.3	3	0	0.0
	試験時間	一般	社会人	備考																																																														
10:00～11:00	外国語	—	英語辞書（紙の辞書のみ）持込可																																																															
11:30～12:30	筆記試験	筆記試験																																																																
13:30～	口述試験	面接																																																																
年度	前期課程			後期課程																																																														
	入学生員	入学者	充足率	入学生員	入学者	充足率																																																												
H31	15	6	40.0	3	1	33.3																																																												
R2	15	6	40.0	3	0	0.0																																																												
R3	15	10	66.7	3	0	0.0																																																												
R4	15	9	60.0	3	2	66.7																																																												
R5	15	14	93.3	3	0	0.0																																																												
博士後期課程 選抜方法 <table><tr><th>試験時間</th><th>一般</th><th>社会人</th><th>備考</th></tr><tr><td>10:00～11:00</td><td>外国語能力審査</td><td>—</td><td>英語辞書（紙の辞書のみ）持込可</td></tr><tr><td>11:30～12:30</td><td>論文試験</td><td>論文試験</td><td>分野に関する専門知識等の論述審査</td></tr><tr><td>13:30～</td><td>面接試験</td><td>面接試験</td><td>研究計画等に関する口頭試問</td></tr></table> ※出願書類、外国語能力審査（該当者のみ）、論文試験、面接試験の結果を総合して可否判定する。 ※外国語能力審査に持ち込める辞書は、英語辞典（紙の辞書のみ）に限る。	試験時間	一般	社会人	備考	10:00～11:00	外国語能力審査	—	英語辞書（紙の辞書のみ）持込可	11:30～12:30	論文試験	論文試験	分野に関する専門知識等の論述審査	13:30～	面接試験	面接試験	研究計画等に関する口頭試問	○過去 5 年間の収容定員に対する在籍学生比率 <table><tr><th rowspan="2">年度</th><th colspan="3">前期課程</th><th colspan="3">後期課程</th></tr><tr><th>収容定員</th><th>在籍者</th><th>充足率</th><th>収容定員</th><th>在籍者</th><th>充足率</th></tr><tr><td>H31</td><td>30</td><td>11</td><td>36.7</td><td>9</td><td>4</td><td>44.4</td></tr><tr><td>R2</td><td>30</td><td>13</td><td>43.3</td><td>9</td><td>3</td><td>33.3</td></tr><tr><td>R3</td><td>30</td><td>16</td><td>53.3</td><td>9</td><td>1</td><td>11.1</td></tr><tr><td>R4</td><td>30</td><td>18</td><td>60.0</td><td>9</td><td>2</td><td>22.2</td></tr><tr><td>R5</td><td>30</td><td>24</td><td>80.0</td><td>9</td><td>2</td><td>22.2</td></tr></table>	年度	前期課程			後期課程			収容定員	在籍者	充足率	収容定員	在籍者	充足率	H31	30	11	36.7	9	4	44.4	R2	30	13	43.3	9	3	33.3	R3	30	16	53.3	9	1	11.1	R4	30	18	60.0	9	2	22.2	R5	30	24	80.0	9	2	22.2	
試験時間	一般	社会人	備考																																																															
10:00～11:00	外国語能力審査	—	英語辞書（紙の辞書のみ）持込可																																																															
11:30～12:30	論文試験	論文試験	分野に関する専門知識等の論述審査																																																															
13:30～	面接試験	面接試験	研究計画等に関する口頭試問																																																															
年度	前期課程			後期課程																																																														
	収容定員	在籍者	充足率	収容定員	在籍者	充足率																																																												
H31	30	11	36.7	9	4	44.4																																																												
R2	30	13	43.3	9	3	33.3																																																												
R3	30	16	53.3	9	1	11.1																																																												
R4	30	18	60.0	9	2	22.2																																																												
R5	30	24	80.0	9	2	22.2																																																												

令和 5 年度 点検・評価報告書

現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・特になし	【長所】 ・特になし
	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし
現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・過去 5 年間に於いて、博士前期課程の入学定員及び収容定員に対する充足率は徐々に向上しているが、博士前期課程及び後期課程ともに入学定員を満たせていない。この原因として、経済的な負担、学部学生の大学院進学意欲の低下、大学院進学の特長の不明瞭などが考えられる。
	【課題】 ・2023 年度から博士前期課程を 6 月上旬と 7 月上旬の 2 回、試験を実施することに改定したが、学部学生の就活スケジュールの早期化に伴い、学内推薦入試のスケジュールを再検討する。	【課題】 ・入学者数の増加に向け、学部と連続した教育・研究の啓蒙、魅力ある研究テーマの設置、生活支援の更なる充実、学部生・保護者への広報活動、大学院進学の特長の説明会・相談会、学部生に対する大学院修了によるキャリアパスの提示などの改革を継続する。
根拠資料名	・第 342 回東京情報大学大学院拡大研究科委員会資料 ・大学院（博士前期課程）学内推薦入試のご案内 ・東京情報大学大学院総合情報学研究科（博士前期課程）学内推薦入試の実施について（お知らせ） ・東京情報大学大学院（博士前期課程）入試要項 ・東京情報大学大学院（博士後期課程）入試要項	・第 342 回東京情報大学大学院拡大研究科委員会資料

令和 5 年度 点検・評価報告書

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ つなげている ☐ 一部つなげている ☐ つなげていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	研究指導・授業担当における専任教員については、学部の3学系（「情報システム」「数理情報」「社会情報」）の学生を受け入れており、学部学生の専門性を考慮した科目を整備し、授業担当を学部の教員で対応している。看護学部の卒業生の大学院への進学に対しては、「ヘルスケア情報系列」を設置し、2021 年度から受け入れ可能としている。ただし、研究科の教育体系、科目構成に対応して教員を配置しているが、教員採用人事に関しては学部の教員組織構成に依存しており、大学院固有で必要な科目に関しては、学部と連携して非常勤を採用している。	専任教員の数に関しては、令和5年4月現在で、指導教授16名であり、文部省告示第百七十五号（大学院設置基準第九条の規定に基づく大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数）に示してある工学関係の教員数（原則として、研究指導教員数と研究指導補助教員数を合わせて七以上とする）照らして問題ない。年齢構成に配慮した教員配置については、学部の教員の年齢構成に依存している。	研究科では、教員資格審査基準マニュアルの基準に基づき指導教授、指導准教授及び授業科目担当者の採用を行っている。資格審査委員会の審査において適格と判断された採用者に対しては、大学院研究科委員会において投票を行い、出席者の2/3以上の得票のあった者が、学長の決定を受け、人事委員会に付議され承認されている。	ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動については、学部と共同で実施している。加えて、2023 年度は大学院固有のFD活動を実施する。教員の質的向上に対しては、大学院の授業ごとの「教育評価アンケート」を実施している。	研究科の教育体系、科目構成に対応した昇格、採用等の人事を行っている。教員の個人調書に基づいて、教育研究業績を確認し、研究科の教育体系、科目構成に対応した昇格、採用等を実施している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・特になし	【長所】 ・特になし	【長所】 ・特になし	【長所】 ・特になし	【長所】 ・特になし
	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし	【特色】 ・特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・特になし	【課題】 ・2024 年度以降についても継続的に大学院固有のFD活動の検討を進める。	【課題】 ・特になし

令和 5 年度 点検・評価報告書

根拠資料名	・学生ハンドブック 2023 （大学院総合情報学研究科）	・学生ハンドブック 2023 （大学院総合情報学研究科） ・大学院の教員の数：文部省告示第百七十五号（大学院設置基準第九条の規定に基づく大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数）	・教員資格審査基準マニュアル	・東京情報大学ファカルティ・ディベロップメント委員会要綱	・教員個人調書
-------	---------------------------------	---	----------------	------------------------------	---------